

★今週の聖句

「もし兄弟が罪を犯したら、戒めなさい。そして、悔い改めれば、赦してやりなさい。」 ルカによる福音書 17章3節

★ ねらい

- ① 信仰とは何かを考える。
- ② 自分が赦すだけではなく、赦されていることを知ることが大切な一步。

★ 説教作成のヒント

- ・ からし種は1~2ミリの小さな種で、本当に小さなもののたとえです。
- ・ 「わたしどもの信仰を増してください」と信仰の「量」を問題にした弟子たちに対して、イエスは「信仰とは量や大きさの問題ではないのだ」と言うことでしょうか。
- ・ 信仰の道は、神が働いていてくださる。そこに自分をゆだねていくという世界です。だから自分は何もしなくていい、というのではなく、だから自分にできる精一杯のことをしていくのです。
- ・

★ 豆知識

- ・ 七の七倍は単純な四十九回ではなく、無限にという意味。
- ・ 西洋諸国では一般に、小型の豆本タイプの聖書を「からし種」と通称している。



★ 説教

「船頭多くして船山に登る」ということわざがあります。指図する人が多過ぎるとかえって統率がとれず意に反した方向に物事が進んで行くことの意味です。それでは、船が山に登らないようにするにはどうしたらいいのでしょうか。とても簡単なことです。一人のリーダーに信頼してついて行けばいいのです。

さて、今日、イエス様は御自分の弟子たちに信じることの大切さを教えてくださいます。弟子たちが「わたしどもの信仰を増してください」と言われたとき、イエス様は「あなたがたにからし種一粒ほどの小さな信仰があれば、どんなことでもできる」と答えられました。からし種は聖書の中で一番小さな種としてでてきます。弟子たちが信仰が増えていくことを願ったとき、イエス様は信仰は多いとか少ないかではなく、「ただ信じる心」があればいいと言われるのです。そして、どんなことでもできると言われるその言葉には、奇跡的な力が神さまを信じる者たちに与えられるということではなく、たとえ恐れや不安があったとしても神さまが導いてくださるから大丈夫という力強い約束、神さまにすべてを委ねればいいのだという確信が与えられるのです。その約束への信頼からわたしたちは人を信じるのと同じように、神さまのはからいとその力を信じ、そのみ心に従って生きていくことができるのです。確かにわたしたちのまわりには、困難なことや、自分の力ではできそうもないこと、どうしてよいか分からないことがたくさんあります。けれども神さまは必ず、わたしたち

を正しい道に導いてくださり、わたしたちは神さまを信じるときにその導きに気づかされるのです。船が安全に海の道を進んでいけるように。

けれども、大事なことがあります。わたしたちの信仰は自分の力で手に入れられるものではないということです。自分が信じるから信仰なのではありません。イエス様は『悔い改めます』と言ってあなたのところに来るなら、赦してやりなさい』と言います。この言葉はわたしたちが赦す側になるのではなく、わたしたちを神さまが赦してくださるとのことなのです。「一日に七回あなたに対して罪を犯しても、七回、『悔い改めます』と言ってあなたのところに来るなら、赦してやりなさい』そう言いながら、神さまは人生の中で七回どころか何度もつまずくわたしたちの側に来られて、わたしたちを赦し、共に歩んでくださるのです。何度でも離れていこうとするわたしたちに神さまは何度でも「信じる」ことの大切さに気づかせてくださいます。神さまの助けがなければ何もできないわたしたちに、わたしたちが生きていく上で、最も大切なことである神さまを信じることを教えてくださるのです。そんな神さまの愛、イエス様の恵みを感謝して受けとめて歩いていくのが信仰の歩みなのです。わたしたちの人生の道を導かれるイエス様に信頼しましょう。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

5 7 番

改訂 3 4 番

話してみよう

- ・友達から忠告されたことはありますか？
- ・忠告し合える友達はいますか？
- ・いるとすれば、そのような友達になれたのはどうしてでしょうか？
- ・いないとすれば、そのような友達を欲しいと思いますか？
- ・まわりの人を「ゆるし」たことがありますか？

それは、どんな時ですか？反対に、「ゆるし」てもらったことがありますか？

その時、あなたはどう思いましたか？

やってみよう

「自分の気持ちを神さまに差し出そう」

準備 紙、筆記用具、かご

- 活動**
1. 今までに「悪かったな・・・。」「ごめんなさい」「あんなことしなければよかった」と思ったことはきっと誰の中にもあるでしょう。その気持ちを紙に書いてみましょう。また、高学年の子どもであればなぜそう思ったか、も一緒に。小さい子どもは先生が聞き取って書きます。
 2. みんなで一つのかごに入れ、牧師がとりなしの祈りをし、神さまに赦される(赦された)ことを知らせます。神さまの大きな愛をみんなで感じましょう。

★暗唱聖句

「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」

ルカによる福音書 17章 19節

★ねらい

- ・自分がいやされた、つまり、神がこの自分をいやしてくださったという事実は、「こんなわたしにも恵みが与えられた！」という喜びであると考えたい。

★説教作成のヒント

- ・ユダヤ人とサマリア人はサマリアがアッシリアに破れた後、多くの人が混血の存在ということを中心に、反目し合うようになっていたのです。
- ・反目し合っていたユダヤ人とサマリア人が一緒に行動していることは普通ならば考えにくいことですが、その中で苦しむ者同士として支え合い、助け合いながら生活していたのは、人と人とがお互いの違いを超えて苦しみの中での連帯するという現れなのでしょう。
- ・「知る」は直訳では「見る、分かる」です。
- ・祭司のところに行き、病気が治ったことを宣言してもらえれば社会復帰できる。イエスはもともと、病にあった方々を人々の中に戻すおつもりであった。

★豆知識

- ・神の国はあなたがたの間にあるというイエスのことばがありますが、近さとは人間が感じる距離、わたしから近いのではありません。イエスは、この出来事のように、民族の違いを超えて、神の救いの喜びが広がっていく現実の中に、神の国の実現を見ているのです。

★説教

今もイエス様の時代も、ハンセン病などの重い皮膚病がありました。ほんの少し前まで日本ではハンセン病が発症した方々は療養所に入らなければならず、家族と暮らすこともできませんでした。それはどんな悲しみでしょうか。今日、イエス様はサマリアとガリラヤの間に位置するある町に入ると、十人の重い皮膚病を患っている人がイエス様一行を迎えます。サマリア人とガリラヤ人が一緒に暮らすということは常識的にはないのに、重い皮膚病を患った人々は助け合っていました。彼らは「わたしは汚れた者です」と言いながら一般の群れから間隔をおいて歩いていかねばならない掟があったのです。しかし、彼らがイエス様に会ったとき、「わたしは汚れた者です」という叫びが「どうか、わたしたちを憐れんでください」という祈りに変わりました。自分だけを見つめて、絶望だけでもうダメだと座り込んでいましたが、そんな状態からどんなに自分の病気が希望のないものであろうともイエス様が憐れんでくださったから、その問題は解決する。イエス様が来てくださったから大丈夫。主の手が届かないところはないという信仰に変わっていったのです。「主よ、憐れんでください」との叫びが何かを変えたのです。イエス様に会っても、ただ路上ですれ違ったにすぎなかった人も多かったことでしょう。けれどもその中でこの十人を含め、ある人々はイエス様との出会いを経験したのです。彼らにはイエス様に対する深い信頼があったから、主よという叫びがあったからです。すれ違っている人は何度イエス様に会っても単なるすれ違いでしかないけれども、ただ一回だけでもイエス様に会った人はイエス様の力、みわざ、栄光に拝することができて、そして、神さまの愛に気づかされるのです。

重い皮膚病の十人はイエス様に直していただき、祭司に見せに行ったあと、一人だけを残して、自分の街に帰ってしまいました。最後の一人もイエス様のところに来た後、イエス様は「立ち上がって行きなさい」と言われます。わたしと一緒に来なさいではないのです。イエス様は重い皮膚病の人々が家族と共に生きることの大切さを知っておられたのでしょうか。だから、帰されるのです。

大切なことはイエス様の愛がわたしにあったことを忘れないこと。そして、イエス様から何かしてもらったことよりも、イエス様が共にいてくださることを知ることなのです。それこそが神さまがわたしたちに与えてくださっている恵みなのです。それに気づくことがキリスト教の「信仰」です。すべての人に恵みはあります。あとは気づくか、気づかないかです。わたしたちは主が共にいてくださると気づいたとき、喜びに満たされます。それはもう苦しみも悩みもなくなるからではなく、たとえ、様々なことがあろうともそのことを恐れない強さを与えられるからです。それは神共にいます、という信頼によるほかはないのです。「行きなさい」と言われた後も主と一緒にいられます。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

5 1 番

改訂 1 2 3 番

話してみよう

- ・他人に対して、神様に対してどのようなとき感謝していますか？
- ・信仰と感謝にどんな関係があるのでしょうか？
- ・今までに、人から感謝されたことはありますか？
その時、どう感じましたか？

やってみよう

「赦された時のうれしい気持ちを表そう」

準備 こどもさんびか 2 の 85 番を歌う。

活動 赦された時、どんな気持ちになるか一人ひとりに聞く。

嬉しい、ニコニコしちゃう、幸せ、気分が明るくなる・・・など皆で分かち合う。

その気持ちを体でどう表せるか、考えます。

バンザーイ！ 思い切りジャンプ！ スキップしてランラン♪ ギャロップなどが出たら、嬉しい気持ちを表して、歌いながら体を動かそう！

♪かみさまに かんしゃしましょう（ジャンプ ジャンプ）

ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ（ギャロップ ギャロップ）

かみさまは よいものを くださった（バンザイ バンザイ）

ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ（スキップ スキップ）

★暗唱聖句

まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあろうか。

ルカによる福音書 18章7節

★ねらい

- ・祈りの大切さと神さまが誠実でいつくしみ深い方であるから、わたしたちの祈りを必ず聞いてくださる、ということを受けとめましょう。

★説教作成のヒント

- ・「裁き」には「悪を断罪する」という面だけでなく「善悪をはっきりさせ、弱い人を守る」という意味があります。ですから、「相手を裁いて、わたしを守ってください」ということばは、直訳では「相手に対してわたしを裁いてください」になり、わたしの正しさを証明するか、または自分に正しくないところがあれば教えてくださいという謙虚な願いです。
- ・やもめの祈りが真剣で深かったのは、自分にとって、この問題がそれだけ切実だったからです。わたしたちは自分の目の前にある問題、世界の貧困など、現実の人間の苦しみに切実さを持っているでしょうか。他人のように振る舞い、無視していないか問われています。

★豆知識

- ・旧約聖書の中でやもめは自分を守ってくれる人がいない社会的弱者の代表でした。
- ・神は誰一人切り捨てず、すべての人を救うために、もっとも貧しく弱い者を選ばれる。(申命記 6章6-8節、IIコリント1章26-31節参照)。

★説教

アルブレヒト・デューラーという人の作品に「祈りの手」という彫刻があります。デューラーは幼い頃から画家になりたかったのですが、貧しく芸術を学ぶことなどできませんでした。夢を追い続け、芸術家に師事しましたが、生活と学びの両立は難しいものでした。そんな苦しいとき兄弟のひとりと賭けをします。賭けに勝ったほうが絵の勉強をするかわりに、もう一方のひとは炭坑に働きに出て経済的にそれを支える。そして四年たったら交代するという約束です。賭けと言ってもアルブレヒトの才能を認めた兄弟が自分が働きながら生活を支えるという提案でした。兄弟の熱心な説得によって、その提案を受け入れ、兄弟がぐたくたになるまで働いて生活費を稼ぎ、彼は熱心に学びを続けました。そして、四年が経つ頃、ついにアルブレヒトの木製の彫刻が売れはじめ、約束通り、今度はアルブレヒトが経済的に兄弟を支え、兄弟も画家に復帰できる日がやってきたのです。ところが、重労働によってこわばり曲がってしまった兄弟の指は、もはや鉛筆をにぎれないほどボロボロになっていました。このことを知ったアルブレヒトは心が痛み、大きな悲しみに包まれてしまいました。そんなある日、アルブレヒトが思わない時間に帰宅すると、兄弟の声が聞こえてきたので、のぞいてみるとそこにはくたびれ果てて、でこぼこになってしまった両手を合わせて祈る姿があったのです。彼は、この自分の目の前にある、重ね合わされた祈りの手を絵にすれば、自分の感謝を彼に示すことができると思い、祈りの手を描いたのです。兄弟が祈りを捧げる手がデューラーの描いた「祈りの手」なのです。この祈りの手の中には、アルブレヒトの感謝の思いがしっかりと息づき、絵画の持つ美しさに加えて、兄弟愛の物語の美しさをくみ取ることが出来ます。それからというもの、彼は祈りの絵を描くときには、

つねに兄弟の好意に感謝し、節くれだった手を絵に残していったのです。

今日、イエス様がわたしたちに語りかけることは祈ることの大切さです。けれども、祈ったからと言って、わたしたちの思い通りのことが起こるというわけではありません。当時、社会的には最も弱い立場、また聖書の中でも最も貧しい者におかれていた未亡人が、自分の利益しか考えないような裁判官の所へ足しげく通い、自分を守ってくれるように忍耐強く願い続けました。裁判というのは正しい人には正しいという判断、お墨付きをくれます。不正な裁判官でしたが、熱心な祈りを聞き届けます。いわんや、正しい裁判人である神さまがわたしたちの祈りを聞き届けられないことがあるのでしょうか。そんなことはありません。必ず神さまはわたしたちの祈りをきいてくださいます。小さく弱いわたしたちを心から愛して、捨てられないイエス様の愛を信じて歩みましょう。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

10番

改訂10番

話してみよう

- ・あなたが、祈り続けていることはありますか？
- ・それはどんなことですか？
- ・あなたにとって、祈り続ける祈りとはどん祈りと思えますか？
- ・何事も継続することは難しいことです。
あなたが今、あきらめずに継続していることはありますか？
- ・イエスさまは、私たちに懸命に祈ることの大切さを教えてくださいました。
あなたは今、どんな事を一番祈りたいですか？

やってみよう

「CS 運動会！！」

準備 ゲームに使うもの 賞品のおやつ（みんなで食べる分）など

活動 過ごしやすい季節となってスポーツの秋、と言われます。CSでも運動会をやってみませんか。

もしも外に出られるなら思い切りからだを動かしましょう。

また、広いスペースがなかったり、雨の場合は部屋の中でできるゲームを楽しむミニミニ運動会もOK。遊んだ後はみんなでおやつタイム！

★ 外なら・・・年齢にあわせたリレーやかけっこ パン食い競走 大縄跳び など

★ 室内なら・・・ハンカチ落とし、宝さがし、

それぞれが持った鉛筆（危なくないように短かめのもの）をつかって列ごとに輪ゴムリレー、小さな子どもが高学年の子どもの背中にしがみついてカメさんリレーなど

★暗唱聖句

だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

ルカによる福音書 18章 14節

★ねらい

- ・へりくだることは自分を卑下することではなく、ありのままの自分を認め、神さまに受け入れていただくことです。

★説教作成のヒント

- ・ファリサイ派の人の「うぬぼれ」の根拠は、結局のところ他人との比較でした。それは他者との関係を断絶し、周りの人は競争相手になってしまい、弱い人への共感を見失うことになります。
- ・祈りとはありのままの自分を神の前に差し出すことです。そこでは人との比較は役に立ちません。
- ・「罪人であるわたし」。罪とは神さまから離れることです。漫然と生活しているだけでなく、本気で神に近づこう、キリストに従っていこうとした時にこそ罪人であるわたしを感じるのです。
- ・「義とする」はギリシア語の「ディカイオオー」という言葉の直訳ですが、聖書の中で語られる「義」（ギリシア語では「ディカイオシュネー」）は「人間的な正しさ」という以前に、根本には「神の義」ということがあります。「人が義とされる」は「人が神の義にあずかる」こと、もっと分かりやすく言えば「神に受け入れられる」ということです。

★豆知識

- ・「ファリサイ」ということばは「分離する」という意味の言葉から来たとされます。彼らは自分たちを「律法を知らない汚れた民衆から分離した者」と考えていました。
- ・ファリサイ派の人々は「口伝律法」を大事にしました。「口伝律法」とは、聖書の律法を現実の生活に適用するために律法学者たちが作り上げた多くの解釈のことです。

★説教

「だって、…だもん」という言い訳の「だって、」という言葉をよく使わないでしょうか。本当は自分が間違っていることや自分がやらなくてならないことが分かっているのに、すぐに「だって、」と言ってしまふことがあるかもしれません。「だって、いいじゃない」という思いの反対は素直に過ちを認める心です。自分が間違っている、自分の方こそ正しくないという思いを持つことはとても大切なことです。

今日、イエス様のお話の中にファリサイ派の人々がでてきます。ファリサイ派というのは一生懸命規則や掟を守って生きている人たちです。すべての掟を守ることは立派なように思います。できれば、わたしたちもそうしたいと思います。ただ、ファリサイ派の人たちは「自分たちは他の人よりもちゃんと掟を守っている」といつも自慢していましたし、掟を守ることができない人たちのことをバカにしていました。でも、本当にすべての掟を守ること、すべての約束を守ることができるのでしょうか。時々、忘れてしまったり、知らなかったり、教えてもらっていたけど、勘違いして守れなかったということもあります。パウロという人は「正しい人は一人もいない」と言いましたが、それは人間は弱さを持っているから、決して神さまからの約束を全部守ることはできないと言っているのです。

イエス様は「自分は正しい人間だとうぬぼれて、他人を見下している者」に対して今日のお話をされています。正しいのか、正しくないのかを決めるのは自分自身でしょうか。そうではありません。

それを決めるのは他の人です。わたしたちにとっては神さまが決められることです。

贅沢な生活をしないようにし、たくさん戒めを守りながら、その上で年長者たちには敬意をもって大事に、従う態度で接し、いつも神さまに祈り、人々のお手本となるような生活をする。時には断食をしたり、自発的に献金をしたりする生活はとてもすばらしいものです。でも、その態度が自分の受けた恵み、神さまのくださった恵みに感謝しながら、他の人にもまた同じ恵みがあることを願い求める心を持つことこそが大切なのです。わたしたちが自分は決して、神さまから与えられた約束ごとを守りきれない弱い、小さな一人だと気づく時、他人との比較をやめるとき、神さまの大きく深い愛に気づき、ありのままの自分でイエス様に受け入れてもらうことができることでしょうか。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

4 番

改訂 1 1 5 番

話してみよう

- ・ファリサイ人は、どこ（なに）を見えていますか？
- ・徴税人は、どこ（なに）を見えていますか？
- ・高ぶる心は、あなたにもありますか？
- ・へりくだる心は、あなたにとってどのような心（こと）と思いますか？
- ・思い上がるってどんなことでしょうか？
- ・自分は正しいと思っている人と、悪いと思っている人と、どちらが罪深いと思いますか？

やってみよう

「罪ってなあに？」

今日の箇所を子どもたちと分かち合いましょう。

「罪」とはどんなものでしょうか。

子どもたちがどんな風に受け止めているのか、聞いてみたら色々挙がると思います。

盗む、裏切る、傷つける・・・などが出てくるでしょうか。

聖書にある「罪」とは、盗んだ、傷つけた、などの行動そのものの事だけでなく、むしろ神さまに知らん顔をする、また周りの人たちに対して優しさやいたわりのない自分勝手な思い等わたし達みんなの心の中にあるものだ、と語られてています。

そのことを伝え、いっしょに祈りましょう。

罪をおかさないように、ではなく「神さまと私の心がいつも近くにあるように」また意地悪をしない、だけではなく「まわりの人たちと助け合って仲良く暮らしていけるように」。

子どもたちには、愛なる神さまに向かってのびのびとした信仰をもつ人になって欲しいと願いますし、また、わたし達大人も同じ気持ちで祈りたいと思います。

★暗唱聖句

あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。

ヨハネによる福音書 8章32節

★ねらい

- ・自由とは何でも好き勝手にいいということではありません。責任を伴うものです。イエス様は真理をもって、わたしたちを自由にしてくださいますが、それは神さまにつながっていくことです。宗教改革、ルターの思いは神さまと共に力強く歩む原点に立ち帰ることだったと覚えましょう。

★説教作成のヒント

- ・30節の「イエスを信じる」と31節の「信じた」は意味が違う。後者は言葉に感銘を受けたが、全体的な信頼までは至っていない。イエス様を信じること、神さまを信じることはイエス様に、また神さまにつながって生きることです。
- ・「とどまる」とは「つながる」という意味をもってヨハネは語ります。言葉につながるとき、イエス様につながり、そして、自由になります。矛盾のような気もしますが、凧は糸にしっかりつねがられているからこそ、自由に飛ぶことができるのです。
- ・奴隷という言葉は尊厳を傷つけます。ユダヤ人たちは傷つき、反論します。しかし、お金の奴隷、出世の奴隷、不安への奴隷など、様々な奴隷に今、社会はなっています。目に見える奴隷よりも目に見えないものへの奴隷、罪の奴隷が最も恐ろしいものです。
- ・自由になって、自分の力だけで働くではありません。神さまの力が働いていくので、わたしたちは自由でも善き働きをしていくことができるのです。

★豆知識

- ・真理とは、本当のこと、また本当であること。ありのまま誤りなく認識されたことのあり方。つまり、人間が隠したり、曲げたりしていない、神さまのありのままの摂理。
- ・自由には「フリーダム」と「リバティ」という言葉がある。「フリーダム」は気ままさや傲慢さが含意され、「リバティ」は負債を負っていないという意味。

★説教

インドの父と言われるガンジーはその当時、奴隷として過酷な生活を強いられていた人々を救うためにインドのイギリスからの独立運動を指揮しました。「非暴力、非服従」という今までの暴動とは違う形で独立を成し遂げようとしてしました。この思想は真理の把握と名付けられました。ガンジーはイギリスに留学していた時に聖書を勉強しました。そこには神さまの真理がありました。ガンジーは非暴力運動において一番重要なことは自己の内の臆病や不安を乗り越えることであると言います。それは神さまの真理とは違う何か別のものがわたしたちの中にあるということです。臆病や不安に囚われているわたしを解放してくれる力があるのです。それはわたしが持っているものではなく、神さまが与えてくれるものです。

凧は大空を気持ちよさそうに飛びます。でも、糸につながっていないと飛ぶことはできません。風がないと飛ばません。わたしたちは神さまの言葉につながって、神さまの愛、聖霊という風を受けてはじめて飛ぶことができます。ルターは愛のわざの実践は「貧しいものに与えたり、困窮しているものに貸与している人は、贖宥を買ったりするよりも、よりよいことをしているのだ」「愛のわざによ

って愛は成長し、人間はよりよくなる」と言います。神さまの愛をたくさんいただいているわたしたちはそれを多くの人に差し上げる。そんな自由な生き方、責任ある生き方をしていきましょう。

★分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

36番

改訂120番

話してみよう

- ・真理を知るとは、どのようなことでしょうか？
- ・自由の反対はどのようなことでしょうか？
- ・自由はあなたにどんな力を与えますか？
- ・自由をどのように使いたいと思いますか？
- ・イエスさまは、いつも「わたし」をみていてくださるという、実体験がありますか？
- ・あなたにとって、「自由」とはどんなことですか？
- ・「罪の奴隷」とは、どんなことでしょうか？

やってみよう

「ルターの紋章キーホルダー作り」

宗教改革主日、ということでマルティン・ルターとバラの紋章について学びます。

紋章の背景や花などの色、花びらの数など一つ一つに意味があります。

（ここは先生方にとっても学びのためにそれぞれ調べてください！）

プラ板でこの紋章のキーホルダーを作りましょう。

準備

プラ板(工作用)100円ショップでも買えます。油性マジック（黒・青・赤・黄色など）

2穴パンチ アルミホイル 重しになる厚めの本など（平らな重いもの）

オープントスター キーホルダーの金具(プラ板とつなぐための丸カンも)

ルターのバラの紋章（ルーテル教会ホームページから画像をコピー可）の輪郭を実際の出来上がりサイズよりも少し大きめにコピーしたもの 焼くと小さく縮みます。

高学年の子どもには、紋章のコピーをできれば一人に一枚ずつ用意。

活動

1. A 小さな子どもには輪郭をプラ板に描き写したものを渡す。
B 高学年の子どもは自分で輪郭から描き写す。
2. プラ板を裏返して反対の面から色を塗る。輪郭と同じ面に色を塗ると色がにじむので。
3. 塗り終わったら、ちょうどいい場所を選びパンチで1つ穴をあける。
3. オープントスターで焼く。温度など焼き方はプラ板の説明書に従ってください。小さく縮んで焼き終わったら熱いうちに平らな面に置き、アルミホイルをのせて重しをかけます。冷めたらキーホルダーの金具をつけてできあがり。

★焼く作業は必ず大人がしてください。やけどをしないように特に気をつけましょう。

★焼く前と焼いた後の大きさの違い、焼いた後、穴に金具が通るか、など事前に必ず試してください。

